

**「安満遺跡公園」「としまみどりの防災公園」が
令和4年度第38回都市公園等コンクールで国土交通大臣賞を受賞**

独立行政法人都市再生機構（以下、「UR都市機構」）が防災公園街区整備事業[※]の施行者として整備した「安満遺跡公園」（大阪府高槻市）と「としまみどりの防災公園」（東京都豊島区）が、「令和4年度第38回都市公園等コンクール」において、国土交通大臣賞を受賞しました。



＜安満遺跡公園＞



＜としまみどりの防災公園＞

このコンクールは、一般社団法人日本公園緑地協会が主催するもので、都市公園、公共施設緑地、民間施設緑地等の設計、施工、管理運営等について広く募集を行い表彰するもので、都市公園の設計、施工及び管理運營業務等の技術水準の向上および新たな時代の都市公園の創造に寄与することを目的として毎年開催されています。

国土交通大臣賞は、全応募作品の中で技術水準が高く、今後の都市公園の模範となる最も優れた作品に対して贈られる賞です。

■各事業の評価ポイント

安満遺跡公園	安満遺跡公園は都心の自然環境を最大限に活かした空間展開と貴重な歴史資産を保存・活用した点が高く評価された。
としまみどりの防災公園	官民連携による事業実施や周辺地域の防災性向上と賑わいを創出している点が高く評価された。

UR都市機構は、今後も多様なステークホルダーの皆さまと連携、協働しつつ、長年の技術や知見を活用したまち・住まいづくりを行ってまいります。

【本件に関するお問い合わせ先】

UR都市機構 本社

技術・コスト管理部 環境計画課 (電話) 045-650-0659

広報室 広報課 (電話) 045-650-0887

※防災公園街区整備事業…災害に対し脆弱な構造となっている大都市地域等の既成市街地において、防災機能の強化を図ることを目的として、地方公共団体の要請に基づき、工場跡地等を機動的に取得するとともに、防災公園と周辺市街地の整備改善とを一体的に実施する事業のこと。

■安満遺跡公園（大阪府高槻市）

【受賞部門】

国土交通大臣賞 設計部門

【受賞団体】

株式会社空間創研、高槻市、UR都市機構西日本支社

【概要】

安満遺跡公園は、弥生時代の国宝級の国史跡安満遺跡の史跡公園整備事業と、耐震性貯水槽や防災倉庫、災害時用ヘリポート等の防災機能を持つ防災公園整備事業の2つの事業が一体となって誕生した、市の新たなシンボル公園です。歴史・環境資産を活かしつつ、活発な市民活動の場としても利用できるように、つくりこむ場所とつくりこまない場所をわける「フルメイド・ハーフメイド」※という考え方を取り入れ、「市民とともに育てつづける公園」を理念に計画・設計されました。

【評価コメント】

中心市街地に近い西側のエリアの都市的空間と、安満遺跡や旧京大農場の建物・樹木などの歴史資産を活かす中央・東側の歴史資産空間に分けた空間展開による新たな修景景観、環境を創出するとともに、弥生時代の居住域・生産域・墓域が確認された貴重な環濠集落跡の再現や、長く市民に親しまれてきた農場建物群の利用が高く評価された。



居住域を囲う環濠を示す人工芝の土塁と白砂利



弥生時代の地形を活かした園路

※フルメイド…整備の最終イメージまでを完成させる場所のこと。

ハーフメイド…骨格となる基盤整備は行うが、時代やニーズに合わせて公園づくりを進めることができるように、あえて作りこまないエリアを創出して、公園整備を進める場所のこと。

■としまみどりの防災公園（東京都豊島区）

【受賞部門】

国土交通大臣賞 特定テーマ部門（複合領域の連携により新たな価値を創出した取組み）

【受賞団体】

豊島区、UR都市機構東日本都市再生本部、日比谷アメニス・都市計画研究所・株木建設・NTTアーバンバリューサポートコンソーシアム（構成団体：株式会社日比谷アメニス／株式会社都市計画研究所／株木建設株式会社／NTTアーバンバリューサポート株式会社）

【概要】

としまみどりの防災公園（通称：イケ・サンパーク）は造幣局東京支局の移転を契機に整備を行った防災公園で、官民連携による賑わいまちづくりを目指し、公園整備には Park-PFI 制度を活用しました。また、事業者公募においては、設計・施工・管理運営のそれぞれを得意とする企業が共同して参加することを条件にしたことで、開園後の管理運営を見据えた設計・施工が可能となりました。本公園の整備によって、地域課題であった防災性向上と賑わいの創出が同時に実現しました。

【評価コメント】

設計・施工・管理運営を一貫して行い、官民が連携した新たな事業体制により事業を実施することにより、管理運営を見据えた施設整備と、公園施設を最大限活用した発展的な管理運営を実現し周辺地域の防災性向上と賑わいを創出していることが高く評価された。



災害時にはヘリポートとなる芝生広場



カフェと芝生広場の連続性を高めるウッドデッキ

UR都市機構の歩みは戦後の住宅不足解消に端を発しています。1955年から様々なステークホルダーとともに、時代時代の多様性に即し、安全・安心・快適なまちづくり・暮らしづくりを通して、「人が輝く“まち”」の実現に貢献してまいりました。そしてこれからも、変化する社会課題に挑戦し続けることで皆さまにお応えし、「人が輝く“まち”」づくりの不可欠な存在でありたいと考えております。これまで培ってきた持続可能なまちづくりのノウハウをいかし、都市再生事業・賃貸住宅事業・災害復興支援・海外展開支援に全力で取り組んでまいります。

<https://www.ur-net.go.jp/>



UR都市機構は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。